



安全・安心をお届けいたします

きらきらEyeランド

JA庄内みどり

発行：庄内みどり農業協同組合

協力：酒田農業技術普及課

グリーンプロジェクト情報 第10号

飽水管理で高温対策を！！

完全落水は出穂31日以降！早期落水は登熟不利！

7月の長雨と少照により出穂期は平年並みに落ち着きました。（下表参考）

仙台管区气象台の1か月予報（8月1日発表）によると、今後1か月の気温は引き続き高いと予想されています。出穂後20日間の平均気温、最低気温が高いと白未熟粒の発生が懸念されます。気象予報を活用しながら、よりきめ細やかな水管理を徹底し、高品質米に仕上げましょう。

7月25日に発生した大雨により用水路、灌漑設備が損壊し十分に給水できない圃場があります。雨水を貯水するなどの対応により、できる限り用水の確保に努めましょう。昨年は水不足で用水が行き渡らない圃場が一部見受けられました。地区の配水（番水）計画は必ず守り、地域全体に水が行き渡るようにしましょう。

病虫害防除所の注意報（7月25日発表）では、斑点米カメムシ類が「多い」、発生予報（7月31日発表）では、穂いもちが「平年並」、紋枯病が「多い」となっております。圃場の見回りを行い、病虫害の発生が確認された場合は、各自補完防除を実施しましょう。

出穂期以降も高温で経過しておりますので、刈取りが早まると予想されます。適期刈取りに向け、コンバイン・乾燥機等の点検整備などは早めに実施しましょう。

◎出穂盛期（平坦部） ※つや姫については予想出穂期（8月2日現在）

ふくひびき	はえぬき	ひとめぼれ・雪若丸	つや姫
7/28	8/3	8/3	8/7

技、其の一 高温による品質低下を防ぐ、徹底した水管理！

出穂期以降に高温が続いていることから、胴割粒・白未熟粒による品質低下が懸念されます。管内では、過去に高温による品質低下が発生しています。（右図）

収穫期まで気を抜かず、天候に即した水管理で品質向上に努めましょう。

【高温年での
酒田飽海地域の一等米比率】

平成11年	6%	（乳白粒等の多発）
平成18年	87%	（胴割粒の多発）
平成22年	75%	（乳白粒等の多発）
令和5年	26%	（乳白粒等の多発）

《高温時の水管理》

高温時は水を張ったままにせず、間断灌水と飽水管理を併用し、圃場内の温度低下に努めましょう。

夜間（早朝）灌水→自然落水→夜間（早朝）灌水の繰り返しによる「間断灌水」を行いましょう。（気温が下がる夜間または早朝に入水しましょう。）

出穂後6～10日頃の気温が高いと胴割粒が発生し、出穂後20日間の平均気温と最低気温が高いと白未熟粒が増加します。

～飽水管理のメリット～

湛水管理と比べて①夜間の地温が0.5℃程度低くなります。②土壌を酸化的に保つことができ、根の活力が維持されます。

《登熟期の水管理》

出穂後日数	圃場の土壌水分保持の目安
～20日	くぼみ、作溝等に水が残っている程度（飽水管理）。 それ以上は乾かさない。
21日～30日	足を入れて、かかとの部分に水がにじみ出る程度。
31日以降	黒乾亀裂（一部ひびが入る程度）。※白乾亀裂までにしないこと。但し、刈取り間近になったら、作業に支障のない程度まで乾かす。

◇出穂後30日間は玄米形成に最も重要な時期です。**2湛2落（間断灌水）を基本に飽水管理を併用し、収穫時まで土壌水分を切らさず根の活力維持に努めましょう。**

◇庄内地域は海洋性の気候により、日中と夜間の気温差が小さい地域です。夕方灌水を基本とし、日中と夜間の温度較差により登熟を促進しましょう。

◇出穂期に夜間の低湿度とフェーン現象が重なると、稲体の消耗が大きくなり白穂が発生する恐れがありますので、水温が高くなならないよう、水分不足にならないよう注意し、**事前に3～5cm程度湛水**し稲体を保護しましょう。

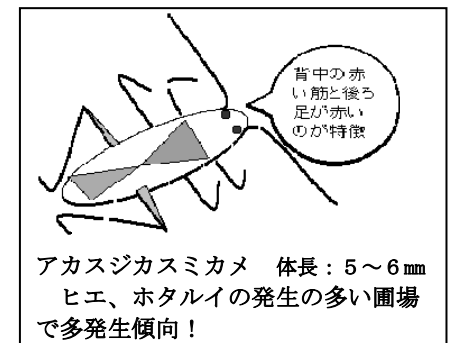
◇完全落水は出穂から**31日以降**とします。早期落水は登熟を妨げ、品質収量低下につながってしまいますので、最後まで土壌水分を切らさないようにしましょう。

地区の配水（番水）計画は必ず守り、地域全体に水が行き渡るようにしましょう

技、其の二 斑点米カメムシ類の発生多い！

① 斑点米カメムシ類

病虫害防除所の注意報（7月25日発表）では、発生量は「多い」となっております。カメムシ被害防止のためには、**8月の草刈り休止期間中は草刈りを控え、圃場内への侵入を防ぎましょう。**なお、**8月の草刈り休止期間の終了時期については現在検討中です。登熟進度と稲刈りの推定開始時期から総合的に判断し、改めてご連絡（8月20日頃）致します。**
例年カメムシ被害の発生が多いところは、補完防除を検討しましょう。



（裏面に続く）

② 穂いもち

穂揃期は、穂いもち（特に穂首いもち）感染の危険性が最も高い時期となります。上位葉に葉いもちが見られる圃場では、穂いもちの発生が懸念されます。**特に大雨により浸水・冠水した圃場**は見回りを行い、発生が見られた場合は追加防除を実施しましょう。特別栽培米の防除については、営農指導員へご相談下さい。

技、其の三 適期刈取りに向けて！

今年は**出穂後も高温で経過しているため、刈取りが早まる**ものと予想されます。収穫作業に備え、早めの機械点検等を心掛け、余裕をもって適期刈取りに向けた準備を進めましょう。

<大豆> 大豆の管理はこまめな巡回と適期防除を！

今年の大豆の開花期は平年より早くなっています。現在の生育量は播種時期の違い、また7月の長雨により圃場によってバラつきが見られます。

今後、高温の日が続くとジャガイモヒゲナガアブラムシの急激な発生が懸念されますので、こまめな圃場巡回と早期発見・早期防除に努めましょう。

品 種		リュウホウ	エンレイ	里のほほえみ
開花期		7／23頃	7／24頃	7／25頃
防除適期	紫斑病	開花期25日後～35日後		
	マメシンクイガ	1回目 8月23日 頃 2回目 9月 3日 頃		

- 紫斑病防除は莢にも薬剤が付着するよう丁寧に散布しましょう。
- マメシンクイガの発生は毎年8月下旬～9月上旬です。適期防除を行いましょう。
- アブラムシ防除は葉裏にも薬剤が十分かかるよう散布しましょう。
- 防除薬剤については、「大豆生産基準」に基づき指定薬剤を使用しましょう。



夏期のアスパラガスハウス栽培の管理情報

1. 換気

ハウス内温度が高くなると若茎の穂先が開きやすくなるので、ハウスサイドの開放以外にも、ハウス入口や妻窓を開けてできる限り温度上昇を抑える。

2. 灌水

- (1)土の乾き具合を見ながら、適宜かん水して草勢を維持する。
- (2)土壌水分は、堆肥マルチ下の土を握ったとき土が崩れにくい状態を保ち、かつ、畝間の土壌表面が乾かない状態を維持する。
 - ・晴天が続く場合は頻度を多くし、乾湿差を出さないように注意する。
- (3)早朝または夕方にかん水する。なお、夕方に行うと夏場の夜の地温を下げる事ができる。

3. 茎葉管理

- (1)立てた茎葉は倒れないように上部にマイカー線等を張り倒伏を防止する。
- (2)下枝：地際から70cmくらいまでの下枝や、その基部から発生する枝は除去して、日当たりや風通しを良くする（若茎の着色促進、病害の発生防止）。
- (3)側枝：通路に垂れ下がり、防除や若茎への日当たりを邪魔する側枝は、必要に応じて葉先を切って整理する。
 - ※収穫時に葉先が眼や顔などに当たらないように注意する。
- (4)枝の除去作業は、切り口が夕方まで乾くように、晴れた日に行う。

4. 防除

- (1)収穫終了期までは15日間隔を目安に薬剤による防除を行う。
- (2)薬剤は作用性の異なるものをローテーションで散布し、薬液は茎葉だけでなく、株元にもかかるように散布する。
- (3)茎葉の整理を行った後には、殺菌剤を予防散布する。
- (4)薬剤による防除とあわせて耕種的な対応も行う。

- ①圃場の排水対策を行う
- ②過繁茂を避け、適正立茎数(収穫1年目は4～5本/株、2年目以降は9～10本/m)を維持する。
- ③倒伏防止に努める。
- ④下枝を整理して、通風、採光を良くする。
- ⑤病茎葉は速やかに圃場外に出す。
- ⑥泥はねを防ぐため、堆肥マルチを行う。

5. 追肥

- (1)草勢を見ながら速効性の液肥や粒状肥料などで、10a 当り窒素成分で1回2～3kg程度を7日～14日おきに施用する。
- (2)施肥の位置は畝の肩から通路の部分に行う。★次号の発行は9月10日です！



気象変動に負けない！庄内みどりのつや姫・雪若丸

つや姫・雪若丸情報コーナー

○ **出穂期には湛水管理を！**
出穂期は、特に水分を必要とするため、湛水管理としてスムーズな開花受精を促しましょう。穂揃い期以降は間断かん水（2湛2落等）や飽水管理で登熟をサポートしましょう。

○「**つや姫**」は**登熟期の葉色診断で玄米粗タンパク値のチェックを！**
「つや姫」の穂揃期はSPADで「38以下」、出穂20日後は「35以下」が目安です。

○ **出穂後30日間は完全落水を行わない！**
早期落水は品質の低下・登熟不良を招きます。

台風接近時の対策

台風が周期的に発生する時期になりました。**強風による稲体の消耗並びにフェーンによる被害を防ぐため、台風の接近が見込まれる場合は早めに圃場への入水をお願いします。**